

花乃井だより

学校
通信

令和2年7月15日(水)

第 16 号

大阪市立花乃井中学校

夏本番!! 蟬の声があちこちに

先週から蝉の鳴き声が聞こえるようになりました。今はもう蝉時雨となっています。蝉というと夏を代表する生き物ですね。校内の木々にも羽化した後の抜け殻を見つけることができます。

蝉には短命で儚いというイメージがありますが、皆さんご存じのとおり、土の中で生活する幼虫の時代は3~17年にもおびります。人間をはじめ、カラスや猫・鳥などの外敵や天敵が多い蝉にとって、外で長期間生きることはかなり難しいこと。そこで子孫繁栄のために選択したのが、生涯の大半を地下で過ごすということでした。

地上に出てからは、1週間くらいの寿命といわれていますが、環境さえ整えば1ヶ月くらいは生きられるともいわれています。私たちが目にする期間はわずかですが、満を持して地上に出てくる蝉。儚くも強い一生といえるかもしれません。

全校集会に代えて

今週も雨天により全校集会がありませんでしたので、この紙上にて、お話をしたいと思います。

このところ記録的な大雨で各地に甚大な被害がもたらされています。梅雨の方もいつ明けるかわからず、被害にあわれた人々のことに接すると胸が痛みます。季節は容赦なく進んでいくので、こちらも本格的な暑さに備えていかなければなりません。

さて、新元号「令和」になってから、その典拠である「万葉集」はブームになりました。「万葉集」には4500余首の歌が収められていますが、その約半数が「詠み人知らず」すなわち「無名の庶民」の作品だそうです。20巻にまとめられていますが、特に決まった編



(学校の敷地内より)

集方針はなかったといわれています。だからこそ、様々な歌が並ぶことで当時の人々の肉声が響いてくるような魅力があります。万葉集研究の第一人者である中西進氏は「『万葉集』には大きく嘆き悲しむ歌が多いのですが、こういう歌は相当に強い精神の力がなくては詠めません。…命が燃えている生きていることを本当に実感しているのだと思います。」と述べています。万葉の時代から庶民はたくましく、賢明に、そして一生懸命に生きてきたのです。

その思いに先述の蝉の一生を重ねつつ、雨が上がった合間などには自然を感じる余裕なども持てるように、心のケアをしていきたいものです。

期末テスト進んでいます。

7月14日から3日間は期末テスト。本日は2日目ですが、

出来はどうでしょうか。1年生の皆さん初の定期テストです。小学校と大きく違う中学校生活の一つ。最後まで頑張ってほしいものです。そして、3年生は第1回目の実力テストとともに、進路へ向けた1学期の評価を左右するテストです。特に今年は例年実施されてきた大阪府のチャレンジテストがコロナ禍によって中止になっていますが、さらに新聞報道等で発表されました。が大阪市の統一テストも中止となりました。学校で行われる毎回の実力テストが個人の成績の位置を知るためにも、今までにも増して重要となってきます。悔いが残らないように取組みましょう。



小中交流研修会

本日、小中交流研修会と各分科会が本校で行われました。この取組みは平成22年度より本格的にはじまっており、小中合同の研究部会を立ち上げた当時は協働授業などを行う中で、小中9年間の一貫カリキュラムを作成し、相互の授業に活用したりしてきました。現在でも本校から3小学校へ英語の授業を定期的に実施しています。また、小学生を本校に招いての中学校授業体験などの取組みを積極的に実施しています。



この日は、花乃井中学校区の3小学校と本校の教員が一堂に会しての全体会（連携総会）の後、第2部として各研究分野や各教科に分かれての分科会を実施。学力や体力の向上・人権教育・特別支援教育などで情報交流を中心に連携を深め、小学生の中学校授業体験についてなど、具体的な日程や内容の調整・打合せを行いました。

【分科会①】

『本年度の研究内容・方法と日程調整について』

- ◆学力・授業研究部（国語）（算数・数学）（英語）
- ◆児童・生徒理解研究部（生活指導面）
- ◆人権教育研究部
- ◆体力・体育授業研究部
- ◆健康教育研究部
- ◆特別支援教育研究部



【分科会②】

『中学校授業体験の授業についての情報交換』

- | | | |
|-----|-----|-------|
| ◆国語 | ◆社会 | ◆数学 |
| ◆理科 | ◆英語 | ◆音楽 |
| ◆美術 | ◆保育 | ◆技術家庭 |

